



～支える人を、まず守る。社会福祉施設の労働防止対策最前線～

葛城労働基準監督署 安全衛生課



説明会の目的

労働災害の特徴理解

社会福祉施設で発生しやすい労働災害の特徴を理解し、傾向把握が予防第一歩となる。

化学物質の安全管理

消毒剤や洗浄剤など化学物質の正しい使用法を学び、健康障害や事故防止に努める。

高齢者配慮の職場づくり

高齢労働者が安全に働けるよう作業改善と配慮を進め、長期勤務を支援する。

社会福祉施設の労働災害の特徴

身体負担による災害

転倒や腰痛など、移乗介助や歩行介助で無理な姿勢や動作が多く身体負担が大きい。

作業中の切創・やけど

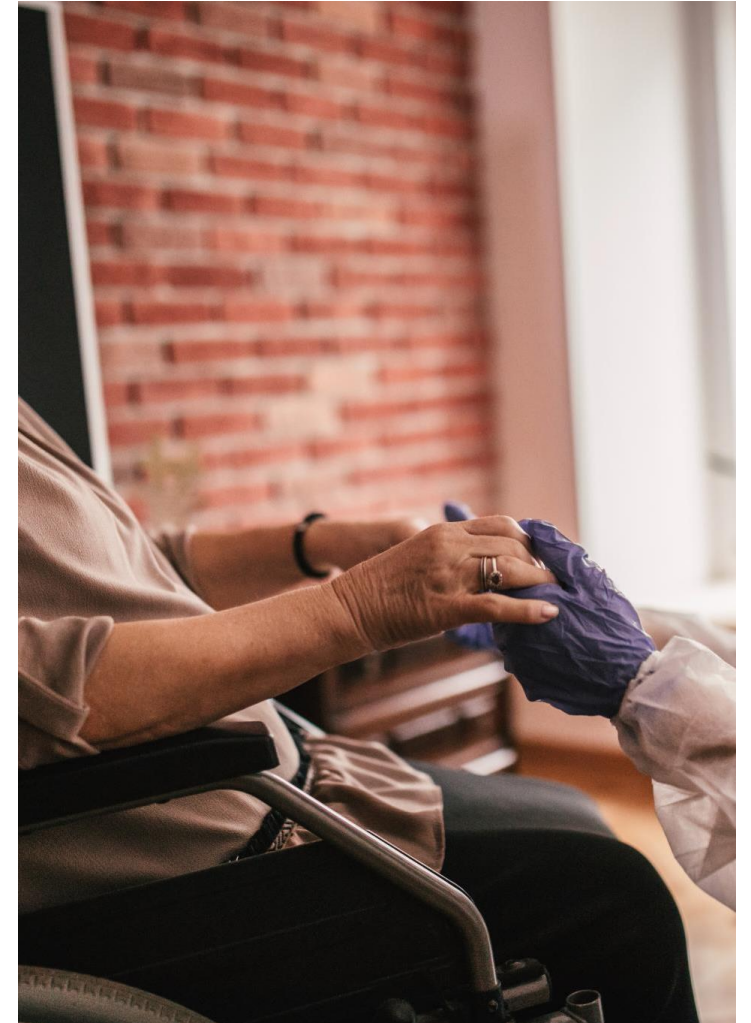
清掃や調理作業での切創ややけど事故も一定数発生している。

化学物質による健康障害

消毒作業の増加で皮膚障害や体調不良のリスクが高まっている。

高齢職員の影響

職員の高年齢化で従来作業方法が災害リスクを高めている重要な要素である。



よく使用される化学物質

代表的な化学物質

アルコールや次亜塩素酸ナトリウムは消毒に頻繁に使用され、清掃には洗浄剤や漂白剤が用いられる。

使用上の注意点

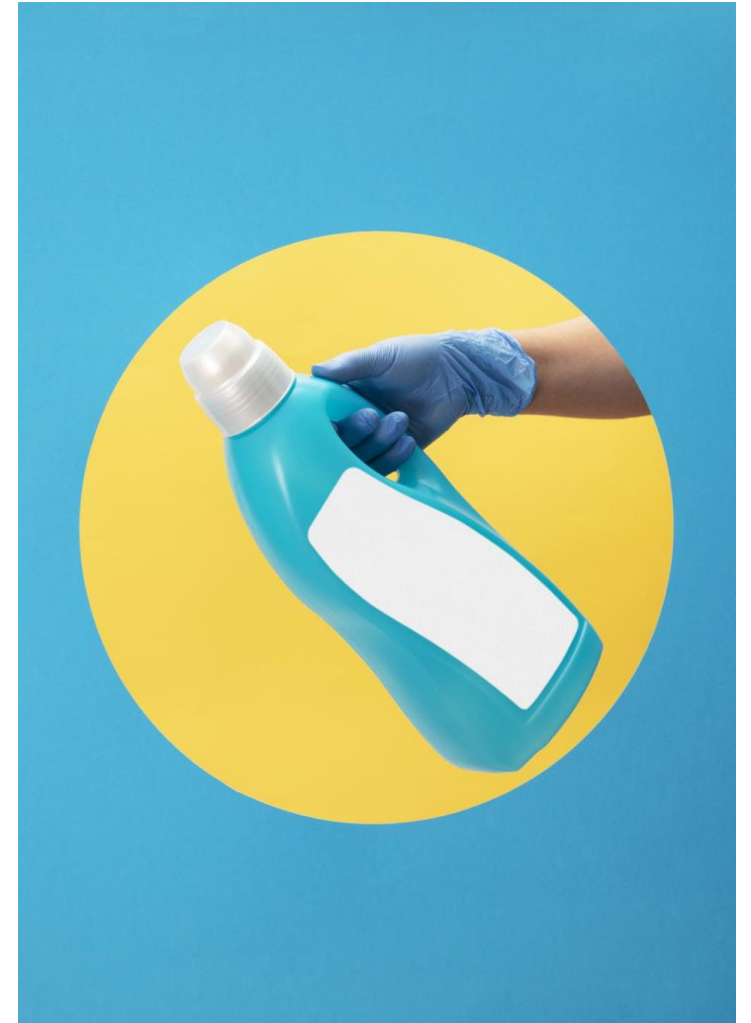
化学物質の誤使用は健康障害や事故を招くため、適切な管理が不可欠である。

表示と管理の重要性

複数薬剤の混在や詰め替えにより表示が不十分になることがあり、注意が必要である。

災害防止の出発点

施設内で使用される化学物質を把握することが安全管理と災害防止の第一歩となる。



化学物質による健康影響

皮膚への影響

洗浄剤や消毒剤が皮膚炎や手荒れの原因となり、素手の作業がリスクを高めます。

呼吸器の刺激

薬剤の飛散や蒸気は目や喉、鼻に刺激を与え、健康被害をもたらすことがあります。

有害ガスの危険性

異なる薬剤の混合により有害なガスが発生し、命に関わる危険があります。

予防と安全対策

正しい知識と対策で健康影響は防げ、危険性の理解が重要です。



化学物質災害防止の基本

安全データシートの確認

SDSを確認し、化学物質の性質や注意点を正確に理解することが災害防止の第一歩です。

容器の明確な表示

内容物が一目でわかるように容器ラベルを徹底し、誤使用を防止します。

換気と保護具の使用

作業場の十分な換気と手袋や保護具の着用で有害ばく露を防ぎます。

混合禁止ルールの周知

危険な薬剤の混合禁止ルールを明確にして作業手順として徹底周知します。



よくある化学物質事故例

有害ガス発生事故

消毒剤と洗剤を混ぜて使用すると、有害なガスが発生し事故につながります。注意が必要です。

換気不足による健康被害

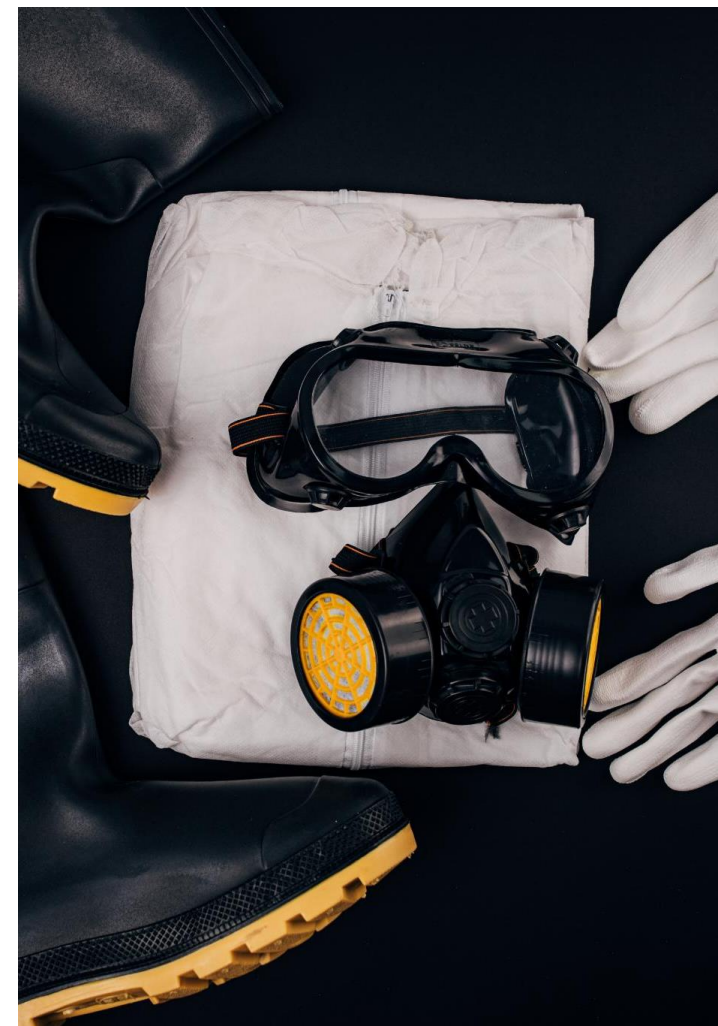
浴室清掃時に換気を怠ると薬剤の蒸気を吸い込み、体調不良になる危険があります。

手袋未着用の皮膚障害

忙しさから手袋を使わず作業すると、化学物質による皮膚障害が発生することがあります。

油断による事故防止意識

「いつもの作業だから大丈夫」という油断が事故を招きます。注意を怠らないことが重要です。





高年齢者の労働災害の現状

転倒災害の増加

高年齢者の労働災害で転倒が多く、わずかな段差や床の濡れが主な原因です。

腰痛負担の増加

重量物取扱いや介助作業による腰痛は高齢労働者の大きな負担です。

環境と作業見直しの重要性

加齢による身体機能低下を補うため、職場全体で環境や作業方法の改善が必要です。

高年齢者労働災害防止の指針

働きやすい作業環境

段差解消や照明の改善で安全な環境を整備し、高年齢者の事故リスクを減らします。

作業内容と量の配慮

体力や能力に応じた作業分担を行い、過度な負担を避けることが重要です。

健康状態の把握と配慮

定期的な声かけや体調確認で異変を早期発見し、労働災害を防止します。

安全教育と情報共有

経験を活かしつつ新知識も共有し、高年齢者の安全意識を高める継続教育が必要です。



社会福祉施設でできる対策



環境の安全対策

滑り止めマット設置や段差の目立つ表示などで、床の安全性を高めることができる。

安全な介助作業

複数名での介助や無理な姿勢の回避により、事故や負傷のリスクを減らすことが重要である。

健康に配慮した業務分担

体力や健康状態を考慮したシフト管理で、職員の負担を軽減し災害リスクを下げる。

事故報告と改善共有

ヒヤリ・ハット事例の共有により、小さな気づきを活かし安全文化を継続的に向上させる。

まとめ

化学物質対策の重要性

正しい知識と基本的ルールの遵守で多くの化学物質事故を防げる。

高齢者支援の必要性

高齢者が安全に働くため職場全体で支える仕組みが不可欠である。

継続的な労働災害防止

労働災害防止は小さな改善の積み重ねで継続的に進めることが重要。

施設内共有の促進

本日の内容を施設内で共有し、一歩ずつ安全対策を実施しよう。

